一人ひとりが何をできるかを語り合い、行動につなげてゆく！

「見えない雲」の上映をしました

福井県越前市　　山崎　隆敏

１月の初め、敦賀市の杉原厚子さんから「３月に敦賀市で、ドイツ映画『見えない雲』を上映する。丹南地域でも上映してほしい」と電話がありました。今年８２歳になる杉原さんは足が悪く、外に出てチケットを売り歩けないため、主に電話依頼でさばくのだそうです。これまでも、『東京原発』『六ヶ所村ラプソディー』など原発の映画を上映し成功させてきました。

「高速増殖炉に技術的未来はなく経済的にも割に合わない。もんじゅは壮大な税金の無駄遣いに過ぎないということを敦賀市民のほとんどが知らない。市民に本当のことを知らせたい」と彼女は言います。

その敦賀では210人が映画を観に来、400枚チケットが売れたと聞きます。原発立地自治体での運動は困難であるとこれまで私たちはいつも言ってきましたが、それは単にやり方が悪かっただけなのか、それとも市民の意識状況が変わってきたのか、ともあれ喜んでよい傾向には違いありません。もっとも年配の人が多かったそうですが、しかしこれは敦賀市民に限った傾向ではありません。

私たちの丹南地域(嶺北地方の中央部)の上映会では、残念ながら3回の上映で125人しか観に来てもらえませんでした。でも、よく見かける顔ぶれは少なく、新聞や折り込みチラシをみてきた人が多くあったようです。プレイガイドでもチケットがよく売れていました。

今年私は村の副区長をしていますが、一人の役員から「折り込みチラシを読んだ。役員会でなぜ映画のことを呼びかけなかったのか(水臭い)」と言われました。12年前に私が初めて選挙に出たとき、区長をしたこともない者がと反発した男性で、その後もよい関係ではなかったため意外な一言でした。人々の心の中で変化がおきつつあるのだと思います。原発の存在、もんじゅの運転再開を快く思っている県民は多くはいないと思います。その意味では今やもう啓蒙の段階ではないのでしょう。一人ひとりが何をできるかを語り合い、行動につなげてゆく方策を探る「懇談会」のようなものを提案してゆきたいと考えています。日本原子力研究開発機構が、敦賀市に引き続き嶺北地方でも「もんじゅ」の運転再開に向けた住民説明会をはじめるようです。とりあえずは、そこに出かけて質問ができるようにみんなで勉強する場をつくってゆくつもりです。

10月予定の「もんじゅ」の運転再開が、ナトリウム漏れ検出器の損傷問題で延期となる模様です。天は少しだけ私たちに時間的猶予を与えてくれました。

私事にわたり恐縮ですが、6月に私たち夫婦は字名が「熊の手」という山村に移り住み自然的暮らしを始めます。かなり広い土地を驚くほど安価で入手できたので、いろんなことができそうです。屋敷内には大きな栗と胡桃の木、タラの芽や野カンゾウ、水蕗など山菜も色々と芽吹いており、お地蔵さんも鎮座ましましています。

「山崎はまじめすぎるから面白くない」「堅い話ばかりするから人が寄ってこない」と、かみさんからも指摘されています。そこで、皆で美味しいものでも食べながら気楽に語り合う場をできるだけ多く作り出してゆきたいと思います。手を替え品を変え粘り強く今後もやってゆきたいと思います。

最後になりましたが、全国の皆さんからの新聞折り込みの資金カンパを有り難うございました。